



<mark>かわばた</mark> やすなり **川端 康成 さん)** 公 社 (代表

> 安永3町内 行政区:

> > 取材当日は本館の外壁復旧作業中でし 祭公社の川端代表に話を伺いました。

4月末、安永地区にある有限会社葬

を最大限活用し、なるべくお客さんに

たが、快く取材に応じていただきまし

階の大斎場の天井が落ち、1階の壁が 用できない状況でした。 はがれるなど、ごく一部の会場しか利 ないほどのダメージを受け、本館も2 にある東館は、会場すべてが利用でき た。県道28号線 (熊本高森線) の南側 (本館、東館)は甚大な被害を受けまし 熊本地震により同社の2つの施設

停止し、提出書類の手続きに非常に、 また、震災の混乱の中、役場機能が

旧への足掛かりとしました。 事業者持続化補助金を利用し、 財団の補助や日本商工会議所の小規模 仮設会場としてプレハブを設けました。 いてグループ補助金を申請、産業支援 負担のかからないよう努め、6月には それと同時に、本館および東館にお 施設復

ることもあり、正直大変でした」と話 取りには会社と県庁を1日に3往復す 応してくれました]と感謝の言葉も口 す一方、「県庁職員が親身になって対 川端さんは、「グループ補助金のやり にしました。へ 補助金申請の時のことを振り返り、

## 祭儀のご依頼を断らざるを得ない状況でした

ばならない状況が続いたことを川端さ んは振り返りました。 本来とは別の場所で手続きをしなけれ 苦労したといいます。しばらくの間、 「会場の利用が制限されたため、震

断らざるを得ない、また仕事を受けた りせざるを得ませんでした」と当時の 災後は多くの方の祭儀のご依頼をお断 心に決め、発災直後から行動を開始し とができない状況に心を痛めていまし としても、すべての祭儀を執り行うこ た。そのため、1日でも早い復旧をと ことを思い、悲しそうに話す川端さん。

まずは、本館で利用できるスペース

稼働へ向けての大きな一歩を踏み出し 3か月後の7月には本館が復旧し、本 迅速な行動の甲斐あって、発災から

の時、発災から2年が経とうとしてい 客さまには大変申し訳なかったです」 せていただかなければならず、せっか に約2件は祭儀の申し込みをお断りさ いた東館がリニューアルオープン。こ くうちでと言ってくださったのに、お 平成30年3月17日、稼動を停止して 「それでも東館がないため、1か月

づくり補助事業を利用し、地域の人た オープン当日、県の商店街にぎわい

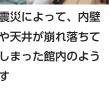












ニーを行いました。 ちを中心としたオープニングセレモ

し、復興にはまだまだ時間がかかりま 姿を取り戻すことができました。しか 復興に向けての課題を語る川端さん |東館ができて、やっと震災以前の

đ

身の引き締まる思いでした。 の言葉に、インタビューをした我々も